

第1回 有識者等懇談会（石橋地域）議事次第

日時：8月2日（水）14時～17時

場所：池田市役所3階 議会会議室

- 1 池田市からの「テーマパーク構想」概要説明
 - 2 懇談会出席者の紹介
 - 3 当懇談会の進め方について
 - 4 事前アンケートの概要紹介
 - 5 各テーマ別ディスカッション
テーマ①：商店街を含む商業活性化のための施策
(グルメ・大企業・学生等との連携を含む)
- 小休憩
- 6 テーマ②：石橋駅および駅前開発の施策
 - 7 その他テーマのディスカッション
 - 8 本日のまとめ・次回に向けての課題共有

以上



第1回有識者等懇談会 (石橋地域)

有限責任監査法人トーマツ
2017年8月2日

本日のアジェンダ

	アジェンダ		想定時間
1	池田市よりご挨拶・懇談会の概要説明		10分
2	懇談会出席者の自己紹介	出席者各位	10分
3	懇談会の進め方	トーマツ	10分
4	事前アンケートの回答紹介	トーマツ	15分
5	テーマ①のディスカッション	全員	50分
	休憩		5分
6	テーマ②のディスカッション	全員	40分
7	その他テーマのディスカッション	全員	20分
8	まとめ・次回に向けての課題共有	トーマツ	20分
		合計	180分

有識者等懇談会の各回の目標地点について

第1回懇談会

目標地点: テーマパークの素材を数多く引き出す

今回の目標地点

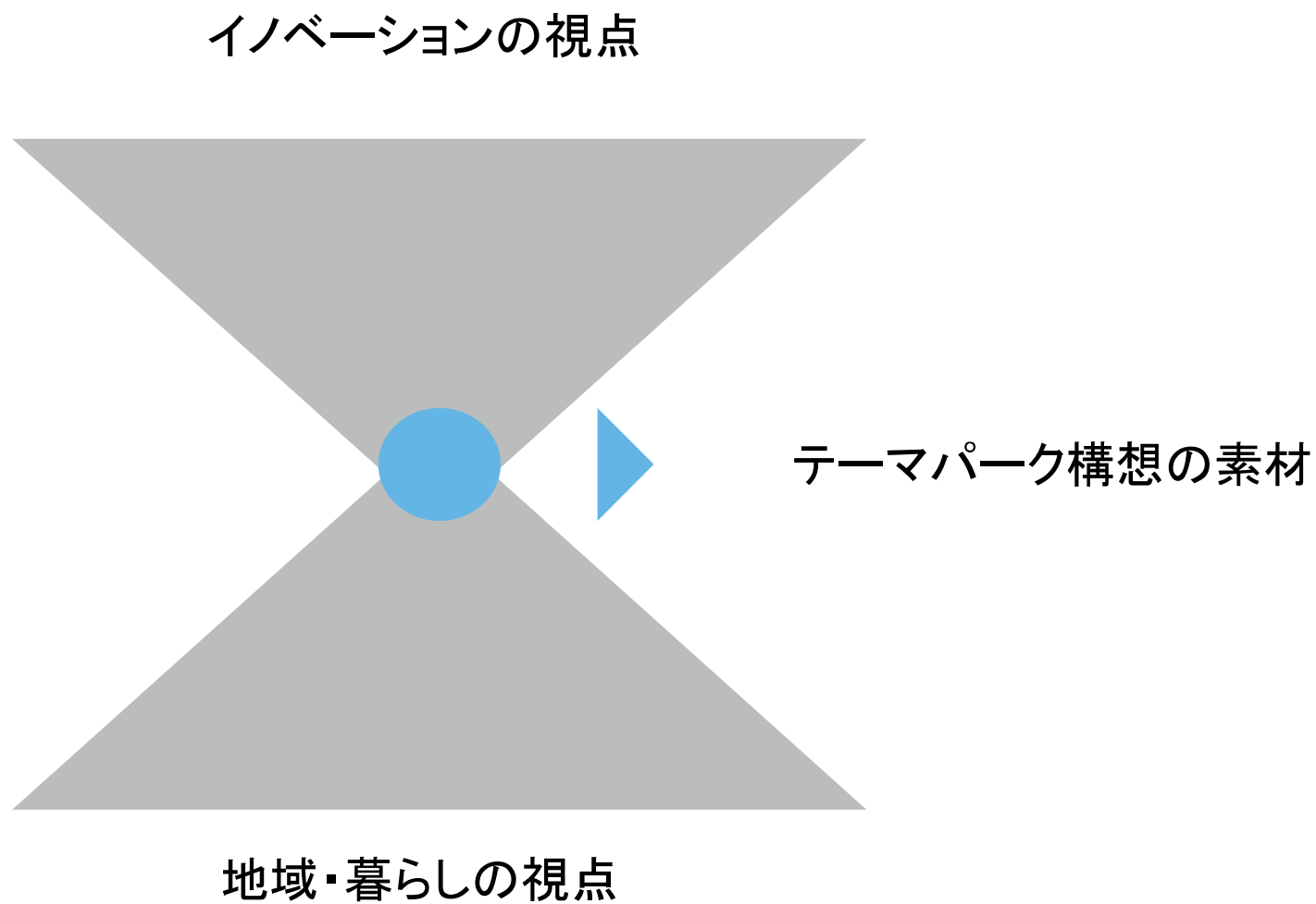
第2回懇談会

目標地点: 地域プランに関連づけたアクションプランの素材をピックアップ

第3回懇談会

目標地点: 各地域アクションプランの確定

テーマパーク構想の素材とは？



事前アンケート結果について 1/4

石橋地域の強みと取り組むべき課題について主な内容は以下のとおりです

石橋地域の強み

教育インフラの充実

交通の利便性

学生を中心とした
若者が多い

石橋地域の取り組むべき課題

不法駐輪・不法駐車

石橋駅前公園の整備

学生との連携

若年家族層の住
みやすい街へ

事前アンケート結果について 2/4

その他アンケート項目について主な内容は以下のとおりです

学生等と連携した持続的施策

箕面川の清掃

寺子屋・学生塾

万国FOOD MARKET

小学生の自由研究のサ
ポート

石橋駅および駅前開発の施策

東西の連絡通路

サンロードの歩行者専用道
路化

石畳の道路

イベントスペースの確保

事前アンケート結果について 2/4

その他アンケート項目について主な内容は以下のとおりです

商店街の活性化のための施策

学生との連携の深化

移動型商店街導入
(ワンボックスカーで)

商店街内の交通整理

その他ご意見欄

ソフト事業の充実

事前アンケート結果について 4/4

テーマパーク構想のテーマについて主な内容は以下のとおりです

石橋地域の想定テーマ

- ◆いつまでも垢抜けず、何かほっとする昭和レトロ感あふれる街
- ◆学生との交流
- ◆定年後のサラリーマンや老人、若者、家族、子供たちが「何かホッとする街」

キーワード

学生・レトロ・ホッとする感じ

石橋地域での議論にあたってのキーワード

地域資源・地域課題
(例)

商店街

地域リーダー

石橋駅

グルメ

若者が多い

テーマパークを考える
上で意識したい用語
(例)

学生との交流

域外の大企業 &
ベンチャー企業と
の連携

イノベーション・未来・夢

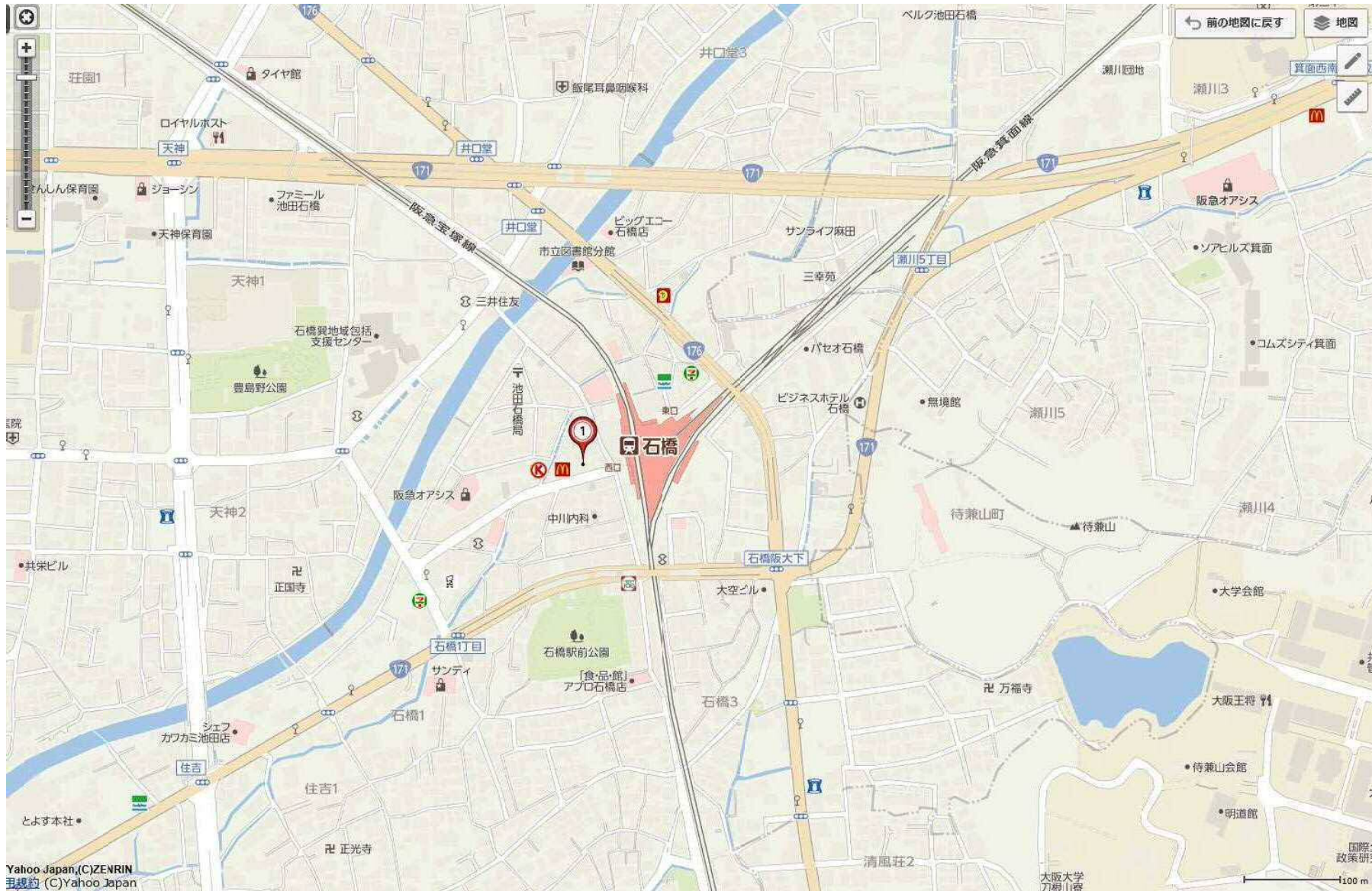
ディスカッションテーマ①

商店街を含む商業活性化のための施策
(グルメ・大企業・学生等との連携を含む)

ディスカッションテーマ②

石橋駅および駅前開発の施策

ご参考: 石橋地域周辺地図





デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人 および DT 弁護士 法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザー等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte (デロイト) は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザー サービス、リスク アドバイザー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスをFortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#) もご覧ください。

Deloitte (デロイト) とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”) ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数指します。DTTL および各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL (または “Deloitte Global”) はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitte のメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第1回 有識者等懇談会（石橋地域） （議事要旨）

日 時：平成29年8月2日（水）14：00～17：00

場 所：池田市役所3階議会会議室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 後藤健太、堀登志子、
地域住民等 7人
池田市 倉田市長、木田副市長、総合政策部長、市民生活部長

1. 池田市より挨拶・懇談会の概要説明

2. 倉田市長より挨拶

3. 「池田のまち みんなまとめてテーマパーク構想」の概要説明

4. 懇談会出席者の紹介

5. 懇談会の進め方

- ・現段階では3回の懇談会を予定。今回はその1回目。
- ・1回目は発散フェーズ。テーマパークの素材を数多く引き出すことが目標。
- ・テーマパークの素材には、1つ目にイノベーションの視点、2つ目に地域暮らしの視点が重要。両視点の接点を多く出してもらうことが目的。

6. 事前アンケートの回答紹介

- 強み：教育インフラの充実、交通の利便性、学生を中心とした若者が多い
- 取り組むべき課題
：不法駐輪・不法駐車、石橋駅前公園整備、学生連携、若年家族層の住みやすいまちへ
- 学生等と連携した持続的施策
：箕面川の清掃、寺子屋・学生塾、万国 FOOD MARKET、小学生の自由研究のサポート
- 石橋駅および駅前開発の施策
：東西の連絡通路、石畳の道路、サンロード歩行者専用道路化、イベントスペース確保
- 商店街の活性化のための施策
：学生との連携の深化、商店街内の交通整理、移動型商店街導入（ワンボックスカーで）
- その他：ソフト事業の充実

7. テーマ①「商店街を含む商業活性化のための施策（グルメ・大企業・学生等との連携を含む）」 のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- ・「石橋×阪大」という阪大のサークルが中心となって季節ごとのイベントをしている。学生発信では商店街を1つのキャンパスとみなし、秋には「文化祭」イベントを開催するほか、昔ながらの商店

- 街イベントや石橋まつり、「春団治まつり」にも学生に参加いただき交流は続いている。学生発信・商店街発信どちらのイベントもどちらかと言えば学生に頼っている。
- ・将来にわたっても阪大との関係を保ちたい。池田駅周辺（栄町商店街）の「関関 COLORS（関大・関学）」とのコラボレーションも密にできないかと思う。
 - ・石橋は「普通」で面白みがないように感じる。何か面白いことを生み出したい。
 - ・商店街のおはこ市がマンネリ化。集結力が弱く、「商店会会員」である商店は一部に過ぎない（約100店/400店）。資金的にも厳しく、元々商売をしていた店と最近始めたチェーン店等で温度差あり。
 - ・昔からあったオリジナルのグルメをやっていたお店は廃業。チェーン店のお店は繁盛しており、石橋のオリジナル要素がなくなっている。
 - ・学生は沢山商店街を歩いているが、あまり買い物はしていないのではないかと。若い人が来ると見込んで出店した企業も実際には若い人の利用が少ないことで撤退し、新しい企業が出店する、の繰り返しでコミュニティが薄れていると感じる。
 - ・学生やサラリーマンが楽しんでお金を落とす仕組みづくりが必要。立地的に人は通るが、本当に魅力を感じてもらえてはいない。
 - ・学生やサラリーマンがIT等によって情報を発信するような、昭和レトロなまち並みは残しつつ、魅力を感じる商店街にしたい。現在はWi-Fiもないのでは。
 - ・商店街の役員、会員、その他の何れかに関わらず、ベクトルを合わせる機会がない。商店街がなくなることはデメリットだと理解してもらい、まずは話し合いの場を持ち、組織の再構築が必要。
 - ・産官学の連携からイノベーションを起こす（学生にとって石橋を学びの場とする）。イノベーションの起こる場所が商店街にあっても良いのでは。
 - ・石橋はあえて東西でそれぞれの文化を構築すれば良いのでは。
 - ・イノベーションとはどういうものを具体的にイメージできるように伝えることが大事。イノベーション世界一と言われているシリコンバレーでは、イノベーションはカフェの交流の中で起きている。イベントを先に作るのではなく、イノベーションの核となるものをつくり、そこから今ある資源を活かすという方法だともっと色々見えてくる。
 - ・アプリを使った地域通貨（仮想通貨）の有効活用を行う。地域通貨は、「池田全体」で使えるようにしても良い。静岡の小さな商店街で実証実験中。
 - ・阪大生協とのコラボにより、生協カードのプリペイド分やポイントを商店街で使えるようにする。
 - ・商売の中身によって、学生の利用は少ない。中には学生証の提示で学割をやっている店舗はある。
 - ・阪大の強みである研究力（教員・研究者）をイノベーションに繋げる方法を考えることが重要。例えば、研究者が集える場所を石橋商店街につくるなど。
 - ・細かい手段から考えるよりは、まず未来の石橋の共通イメージを作った方が良い。
 - ・若手の起業家（大学関係者）が、起業をするための仕組み・場所・環境もつくる。
 - ・空き家の活用については、阪大生が小学生に理科を教えるサイエンスカフェのようなこともしているが、尻すばみになっている。学生にも空き家をもっと主体的に使ってほしい。
 - ・石橋の整備にあたっては、道路に名前を付けるなど、分かりやすくする工夫をする。また、単にネーミングを行うのみでなく、人の集まる空間をつくることが重要。
 - ・阪大に腰を据えた大人（教員・研究者）とどう付き合っていくかが重要。
 - ・これから整備する計画がある拠点施設をどのように有効活用するかが重要。
 - ・空き店舗の仲介業務を自分たちで行い、自らの意図した業種を誘致する（店舗の並びに意味を持たせる）。空間マネジメントを行う仕組みが重要である。

- ・きれいに商店街を整備してしまうより、あえてレトロ感のあるごちゃごちゃした商店街とすることもできる。今の商店街を維持していくのが良いのではないか。

◇無秩序の中に統一感を持たせていけるような空きスペースについて

- ・アーケードのある商店街で既存の空きスペースはない。
- ・サンロードを「夜市」風にして人が集える場所にするのが良いのではないか。
- ・接続性には2つのキーがあり、1つ目は接続できるインフラ。2つ目はイノベーションの核をつくるコンテンツ。
- ・雑然としたあたりを上手く活用する手法は、設計の専門家の知恵を上手く取り込むべき。
- ・商店街の空き店舗状況を把握する仕組みはあるか。(→ない)
- ・店舗の並び順(魚屋の横に肉屋など)は住んでいる人の利便性を考慮しながら整備し、意味を持たせることは必要。
- ・アプリを使ったイノベーションを行う(阪大生協カードとのコラボ、家計簿管理、データによるリコメンデーション(この店舗で買い物した人は、他にこの店舗でも買い物している等)、GPSを利用した店舗案内)。
- ・若干のハード整備をしつつ、感覚的な清潔感を持っていきたい。
- ・商店街もより全体の連携を図りつつ、さらに発展してもらいたい。
- ・友人に石橋の印象を尋ねると、面白いまちという回答が返ってくることの方が多い。来訪者は、ごちゃごちゃしているところにホッとするような雰囲気を感じ出しているとして魅力的と感じている。
- ・安全面には配慮したうえで写真に撮りたくなるようなまちの風景をめざしたい。
- ・現在も面白いまちだが、より面白くなるよう、地元と行政とで追求していきたいと思う。
- ・面白くないというのは面白味がないという意味。夜の酒飲みにとっては面白い場所だが、昼間に石橋に来られる方にとっては面白味がないと思う。
- ・映画のロケ地として誘致する(面白いことの例)。
- ・ターゲットにあわせた面白いことを設定することが重要。どちらかと言えばインバウンドよりも地元市民に面白いと思ってもらいたい。
- ・発信していなくて知られていないから人が来ない。今持っているものを面白く発信する力が大事。
- ・今ある石橋の良さ、プラスアルファの部分をどのように取り組んでいけるかを考えていきたい。
- ・池田駅に今後本市のインフォメーションセンターができるが、池田駅で降りた人に、夜は石橋で一杯飲んで帰ってもらうような案内をすることで、池田地域と石橋地域の連携も図れたら良い。
- ・これまでも知恵を絞り、ありとあらゆる施策を行ってきた結果が今の状態。
- ・飲食の多い東口の場合、阪大新生に「商店街食べ物ツアー」をして、商店街で色々食べてもらっている。ただ、西口はあまりその恩恵を受けられていない。
- ・おはこ市についても、西口と東口とでは統一的な取組を行うことは難しい(例:単価の違い)。
- ・今までやってきた取組に失敗はない。
- ・何か取組を行う際には、「全員一緒に」ではなく、可能な範囲から徐々に参加していくことが重要。
- ・グルメは発信しやすく、話題になりやすい。
- ・石橋では、観光客ではなく地元の人を相手に商売しているということを認識しなければならない。
- ・キーワードは学生(阪大生)との連携。阪大の留学生を交えて、万国フードフェス(日本料理と外国料理の対比)をイベントとして実施しても良い。
- ・小規模飲食店も多いため、SNSによる拡散で一見客が大勢来て、常連客が来られなくなるのは困る

という考え方もある。

- ・配色豊かなレンガやタイルを商店街の下に敷く。
- ・先斗町計画に則って、東口を先斗町、西口（サンロード）を木屋町、石橋の商店街を錦市場のようにはどうか。まちの中に川があり、石畳の通りがあるイメージ。
- ・石畳は高齢者にとっては大変なのではないか。
- ・店に個々に方向性を決めさせるのは難しいと思う。
- ・どんな人でも楽しめる空間にすることが大事。接続できる環境と発信することが重要。楽しそうな雰囲気は素地は石橋の商店街にあると感じている。
- ・どのようなお店があるのか知らないので、情報を発信（PR）していくことも大事。
- ・沿線情報誌の活用など、色々協力を図っていきたい。

8. テーマ②「石橋駅および駅前整備の施策」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- ・石橋は、阪急全駅の中で第16位の利用者を誇る駅である。改札を出てすぐに商店街がある駅は珍しい。石橋駅の整備は、まちづくりの一環として行う必要がある（駅単独で整備できるわけではない）。また、駅をさわると周辺環境を壊してしまうことになりかねない。
- ・駅の東西を結ぶ通路の整備も課題（50年以上も議論が続いている）。
- ・行政は、観光という面に対して池田と石橋では力の入れ方のバランスに差があるように思う。
- ・駅前会館を何らかの観光スポットにすることはできないか。
- ・駅前会館や石橋会館の整備については、より良い方向に進めていけたらと思う。
- ・観光については、先斗町計画の話などもあるが、石橋、池田それぞれの良さを活かしながら、池田市すべてをまとめていきたい。

9. まとめ・次回に向けての課題共有

- ・第1回の目標はアイデアの発散であり、目標は達成できたと思う。
- ・第2回は第1回のアイデアをまとめた上で、地域プランと紐づけた形で具体的なアクションプランの土台作成をめざす。
- ・次回の開催は10月上旬を予定。

以上

第2回 有識者等懇談会（石橋地域）議事次第

日時：10月2日（月）15時半～18時半

場所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

- 1 池田市挨拶・実施（予定）事業の説明
- 2 前回の懇談会の振り返り
- 3 第2回の懇談会の目標地点の整理
- 4 各テーマ別ディスカッション
テーマ①：活性化に向けた商店街の仕組みについて
テーマ②：夜市・その他コミュニティ活性化施策について

小休憩

テーマ③：駅前整備事業について
テーマ④：地域アプリ構想について
- 5 その他テーマのディスカッション
- 6 まとめ・次回に向けての課題共有

以上



第2回有識者等懇談会（石橋地域）

有限責任監査法人トーマツ
2017年10月2日

本日のアジェンダ

	アジェンダ	
1	池田市挨拶・実施(予定)事業の説明	池田市
2	前回の懇談会の振り返り	トーマツ
3	第2回の懇談会の目標地点の整理	トーマツ
4	活性化に向けた商店街の仕組みについて	全員
5	夜市・その他コミュニティ活性化施策について	全員
6	駅前整備事業について	全員
7	地域アプリ構想について	全員
8	その他テーマのディスカッション	全員
9	まとめ・次回に向けての課題共有	トーマツ

前回の振り返り

テーマパーク構想に資する各地域でのテーマ設定が重要です

懇談会を経て、各地域でのテーマを想定したいと考えています

細河地域

地域プランの2つの方向性

- ✓ 細河の自然を取り入れたまちづくり
- ✓ 若者が住みたくなるまちづくり

伏尾台地域

地域プランの2つの方向性

- ✓ 子育てにやさしいまち
- ✓ みんなが住みたくなるまち

池田地域

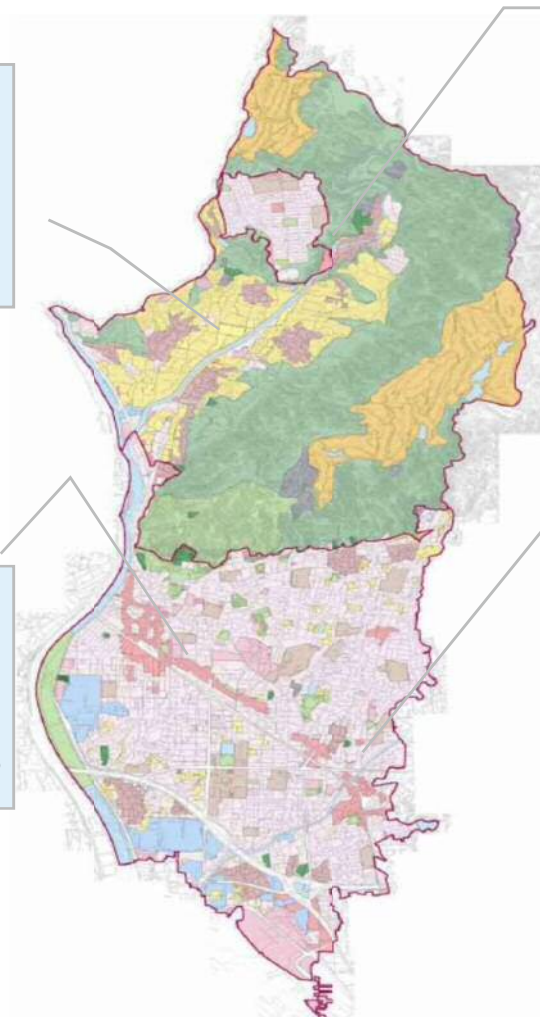
池田DMO構想の方向性

- ✓ 行ってみたいまち
- ✓ 来てみて楽しいまち(住んでみたいまち)

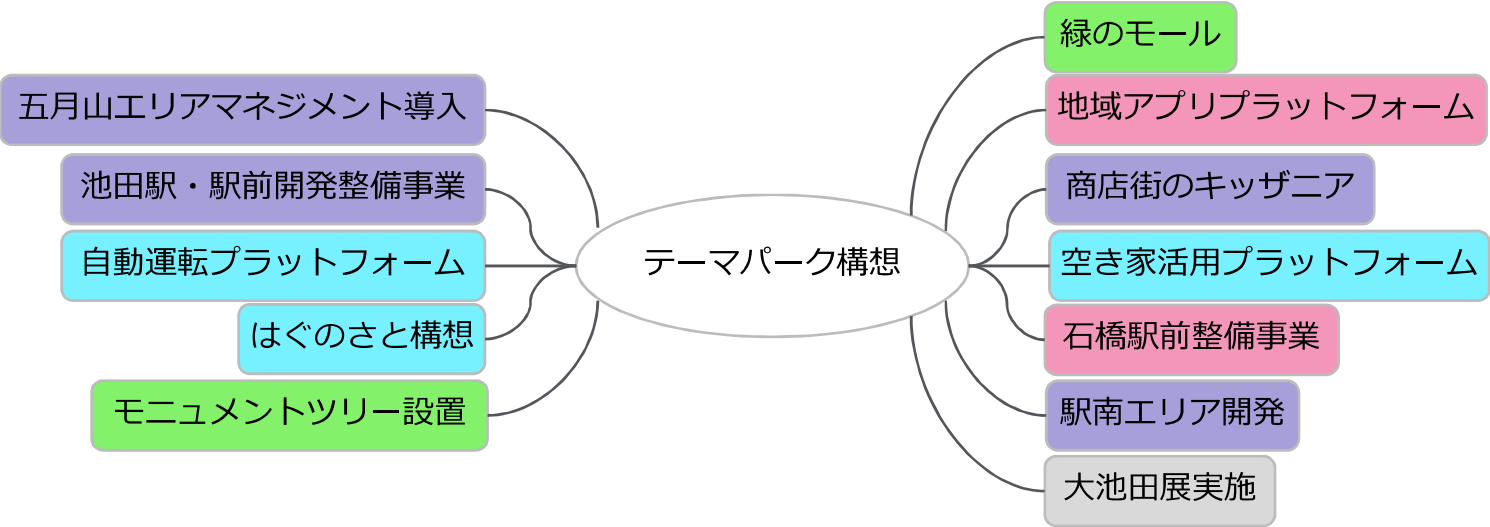
石橋地域

地域プランの2つの方向性

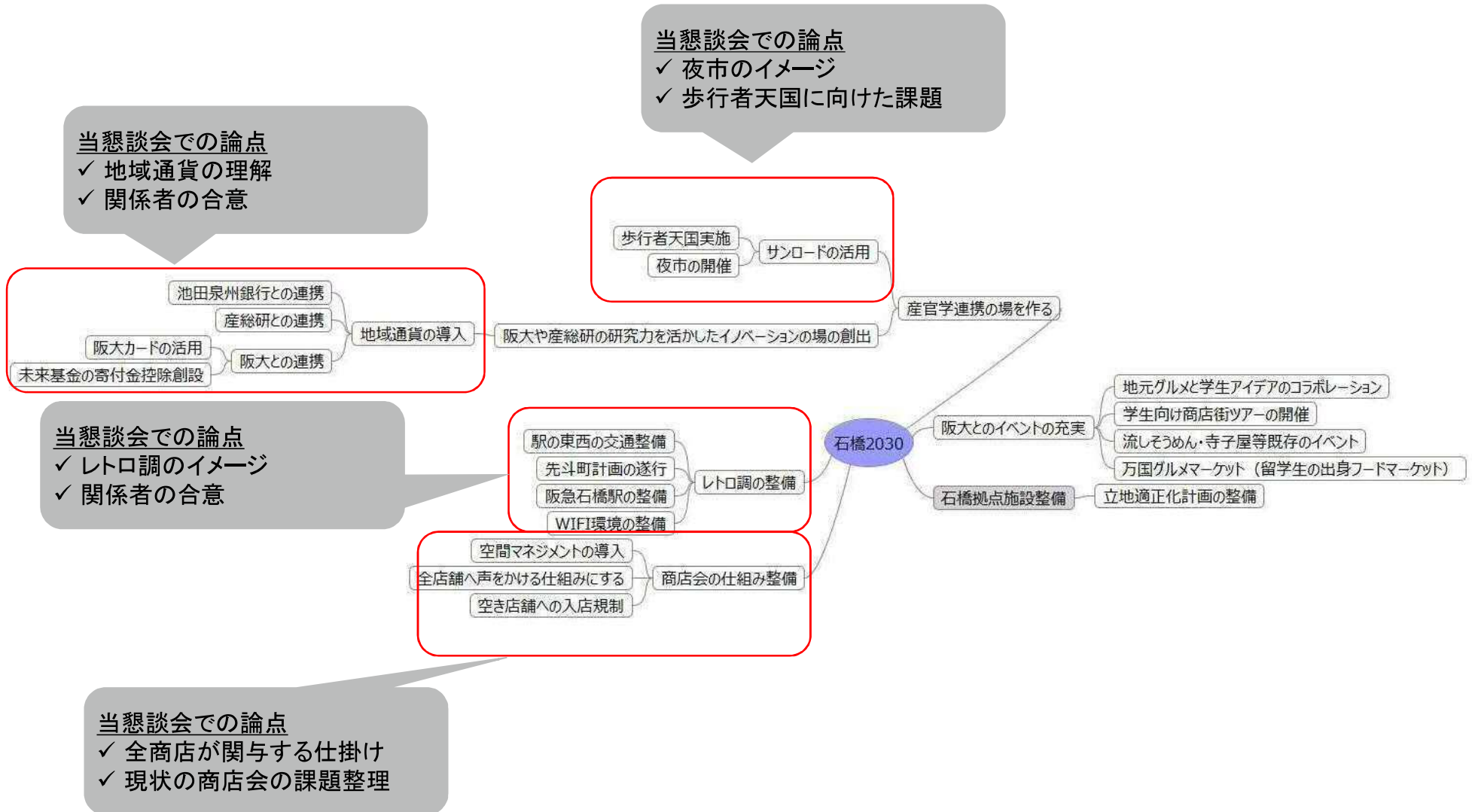
- ✓ 子どもと子育て世代が集まる いしばし
- ✓ 人が集い交流する愛着のある いしばし



テーマパーク構想メインアイデアマップ



ご参考: 石橋におけるアイデアマップ



第2回の懇談会の目標地点の整理

有識者等懇談会の各回の目標地点について(前回の資料再掲)

第1回懇談会

目標地点: テーマパークの素材を数多く引き出す

済

第2回懇談会

目標地点: 地域プランに関連づけたアクションプランの素材をピックアップ

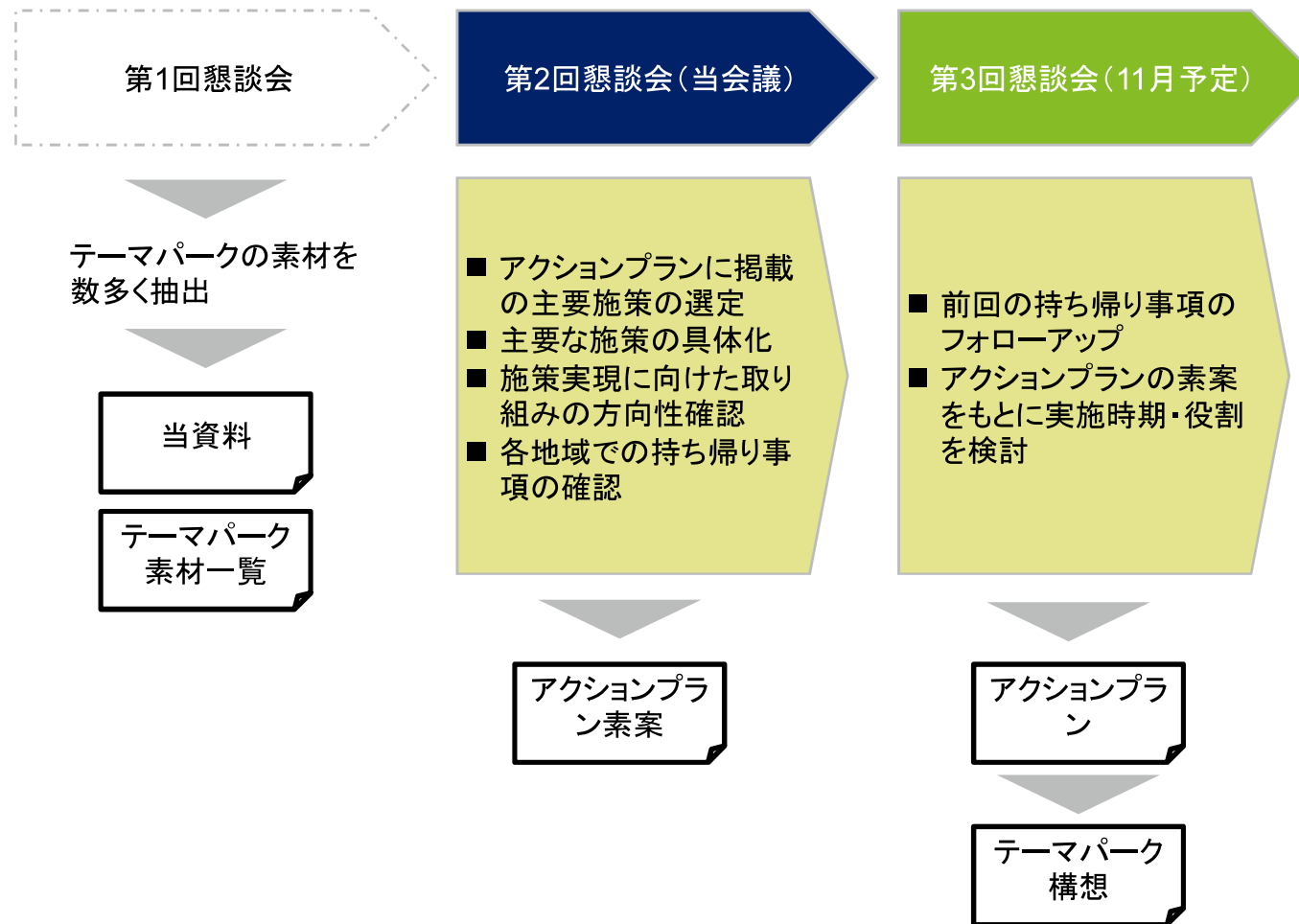
今回の目標地点

第3回懇談会

目標地点: 各地域アクションプランの確定

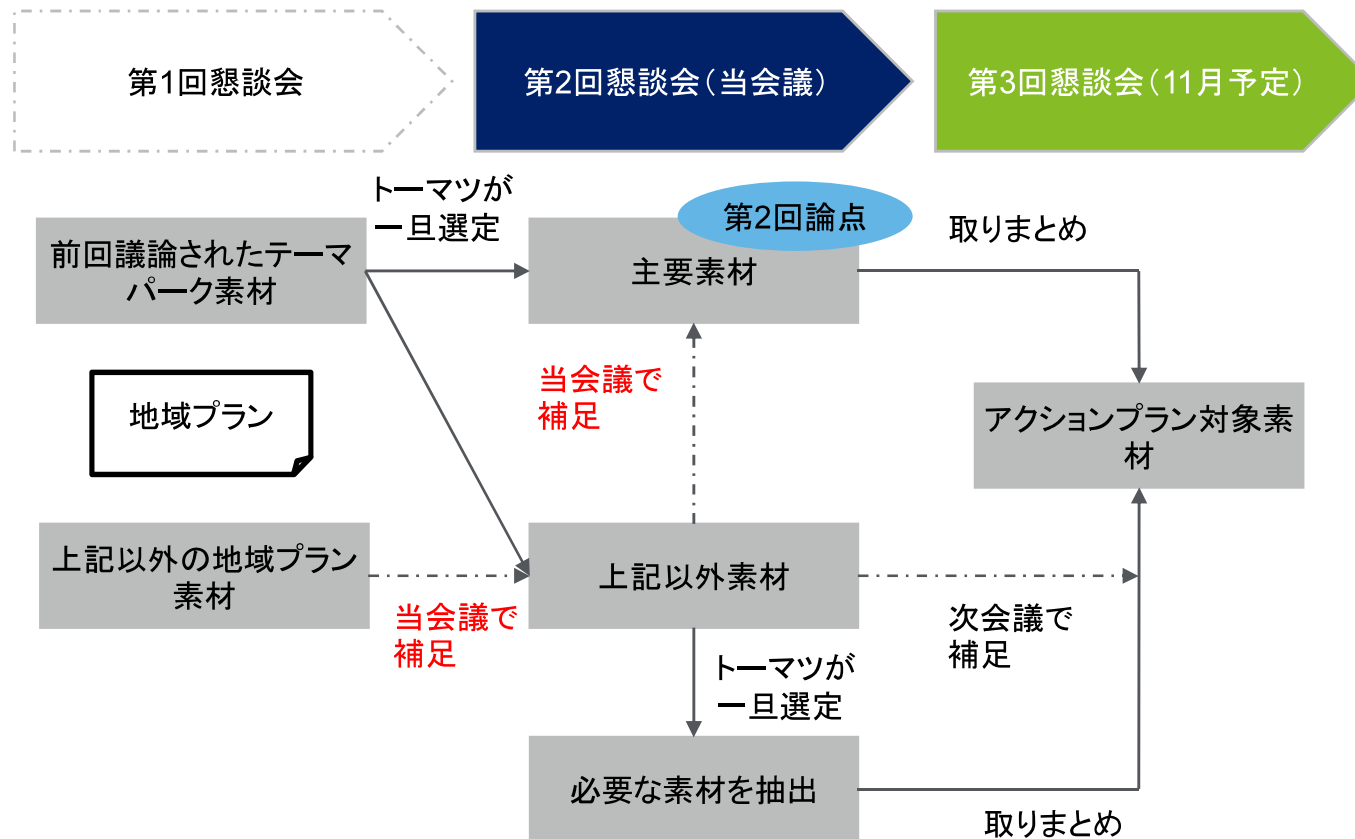
第2回懇談会の目的の確認

テーマパーク構想の主役は地域住民であることの再確認します



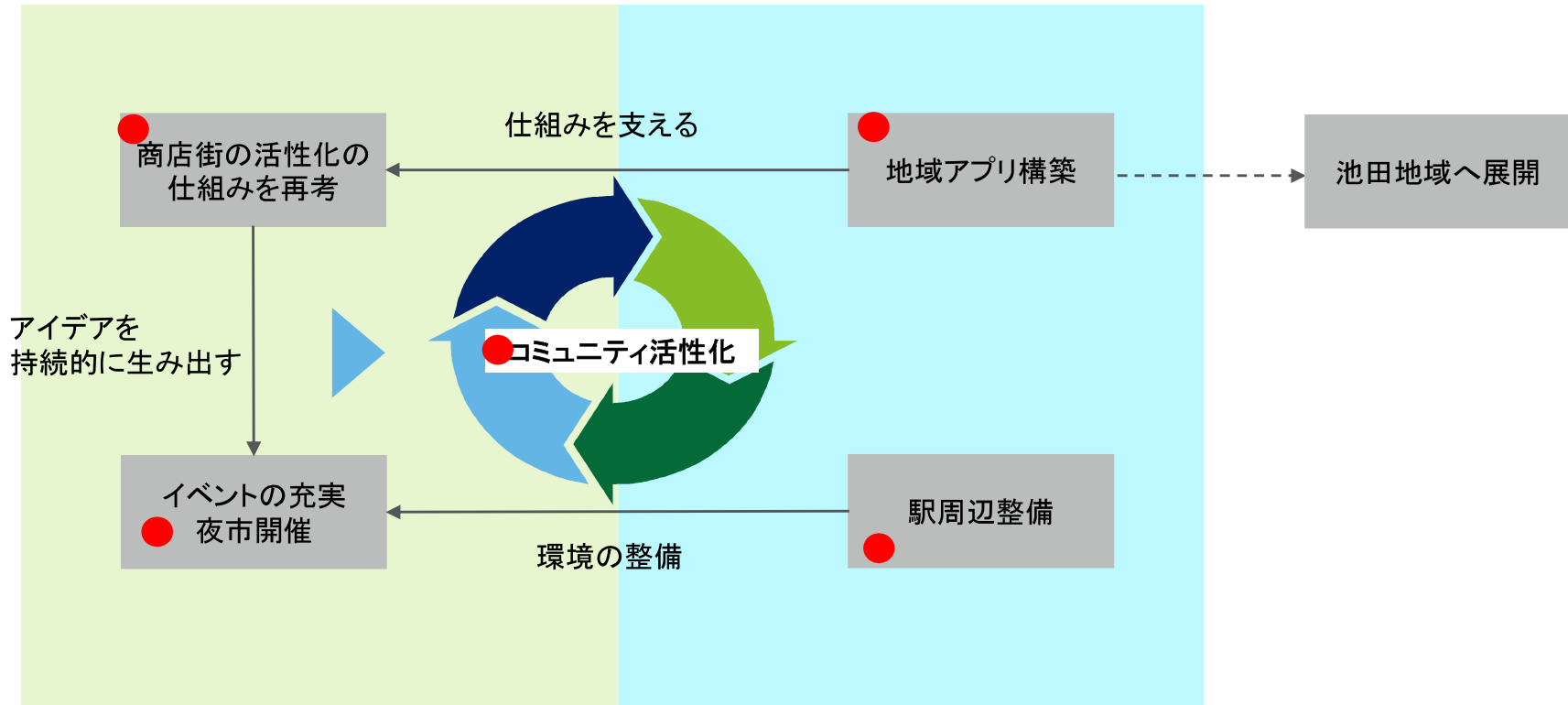
テーマパーク素材(施策)とアクションプラン策定までの流れ

アクションプラン策定にあたっての素材は地域プランや当懇談会よりとりまとめます



主要施策の関連図

●: 本日のテーマ



石橋地域の活性化(テーマパーク化)へ

テーマ①: 活性化に向けた商店街の仕組みについて

想定論点

- 全店が参加できる仕組み形成にむけて
- 空間マネジメントにあたっての課題について

テーマ②: 夜市・その他コミュニティ活性化施策について

想定論点

- コンセプトについて
- 開催場所について
- 開催時期と期間について
- メインターゲット層について

商店街の事例が示している事項とは・・・

事例が示している事項は以下のとおりです

- ◆ やる気のある店主・外部人材が集う仕組みの構築
- ◆ 商店街一体をテーマ化
- ◆ 土地建物の権利関係の整理
- ◆ 商店街の有志によるリスクテイク
- ◆ まちの空気感・空間を変える



以上を踏まえて石橋に必要な要素を組み立ててテーマ設定を行う必要があります

テーマ③：駅前整備事業について

想定論点

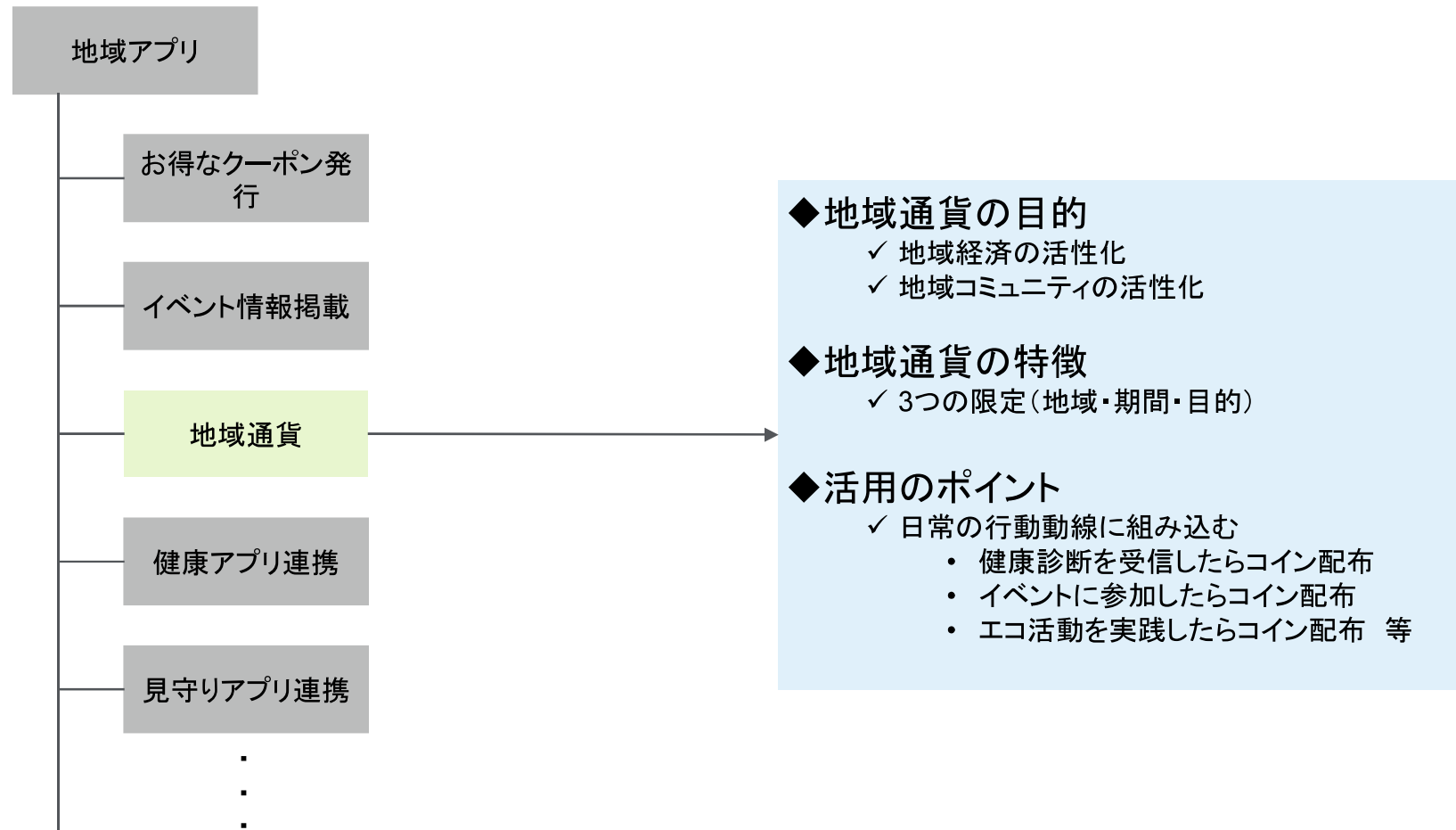
- 現状の市での検討状況と課題について
- 整備コンテンツについて(レトロ調のイメージ)
- 整備範囲および整備費用について

テーマ④：地域アプリ構想について

想定論点

- 地域アプリ導入の概要と導入是非について
- 地域アプリのコンテンツについて(地域通貨・健康アプリ連動・見守りアプリ連動 等)
- 参加店の確保にあたっての課題について
- 施策実施時期について

地域アプリについて



地域通貨の事例の共通項とは・・・

事例に共通している事項は以下のとおり考えます

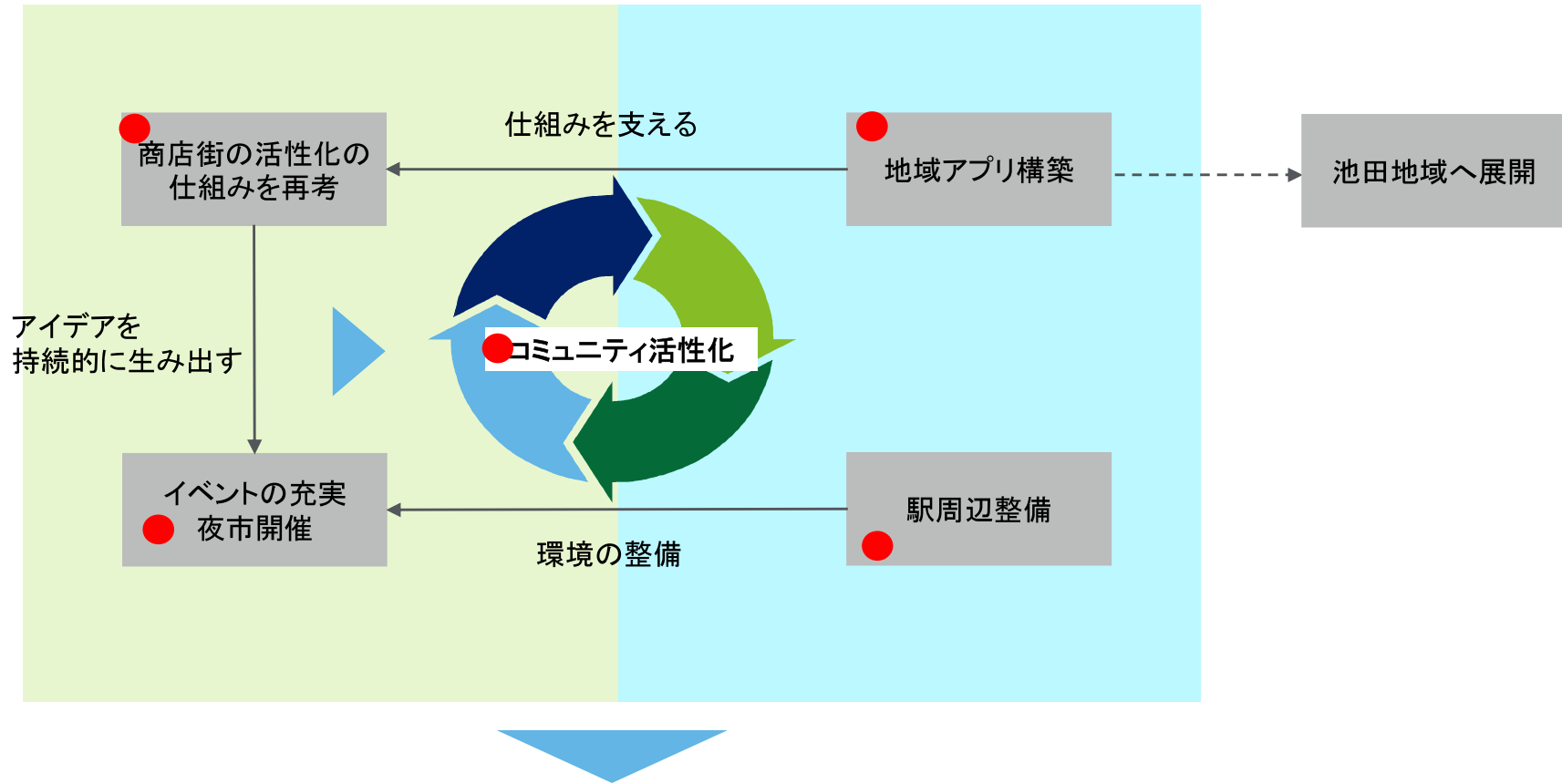
- ◆ ブロックチェーン技術の活用(金融機関や大学の研究テーマとの連携)
- ◆ QRコードでの決済
- ◆ 対象は通貨かポイントか
- ◆ 限定した店舗等で実証実験



以上を踏まえて石橋に必要な要素を組み立ててテーマ設定を行う必要があります

本日のまとめ(再掲)

●: 本日のテーマ



石橋地域の活性化(テーマパーク化)へ

各地域で持ち帰っていただきたい事、次回の懇談会までに・・・

本日の議論を踏まえて、以下の事項を是非地域で検討してください

➤ テーマパーク構想に盛り込む地域のアクションプランについて

➤ 本日議論したメインアイデアの実施について

デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人およびDT 弁護士 法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー サービス、リスク アドバイザリー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスをFortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)もご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数指します。DTTLおよび各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL(または“Deloitte Global”)はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitteのメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第2回 有識者等懇談会（石橋地域） （議事要旨）

日 時：平成29年10月2日（月）15：30～18：30

場 所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 後藤健太、堀登志子
地域住民等 6人

池田市 倉田市長、木田副市長、総合政策部長、市民生活部長、都市建設部長

1. 倉田市長より挨拶

2. 実施（予定）事業の説明

3. 前回の懇談会の振り返り

4. 第2回の懇談会の目的地点の整理

- 第1回目は議論の発散フェーズ。
- 前回の議論の深掘り及びアクションプランの方向性に関するご意見を頂きたい。
- 本日議論した内容を検討材料として持ち帰り、各地域において建設的な議論をしていた
だき、第3回の際にぜひ発表いただきたい。

5. テーマ①「活性化に向けた商店街の仕組みについて」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- 商店街がめざしているのは、一過性の成功ではなく、地域の住民と繋がっていくこと。
住民や町会のメンバー等と手を取り、若手でグループを作るなど、このまちを考え直して
いこうという会をつくり、そこで出た意見を基に自分達が今やるべきテーマを見極め、
それを発言する手段としてイベントを行う。そのイベントが持続し、形を変えながら、
成功に導いている例が多い。
- 例えば千林の商店街は、店主達が集まって行った100円商店街が非常に成功した。地域
の中の商店街として生きていかなければならないという思いで、97%以上の商店主が参
加する必要があると考えた。その成功例に甘んじず、地域の中の課題を抽出し、主婦な
ど様々な人を巻き込んでグループをつくり、一つ一つを商店街の中で実現しなければな
らぬという思いで実行している。
- まちの中の要となる商店街としては、昼間いる人達を守る商店街でないといけない。そ
れまで人の賑わいに焦点を置いていたが、安心、安全、美観の整備の観点から子供の見

守り事業や清掃作業などを始めた例も多い。

- 成功例の一つとして夜市はあると考える。商店街は通常、夜は真っ暗。夜市を行うことによって商店街を知ってもらえることができる。市民の傾向としてお母さんが来てくれるところにはお父さんも行く。お父さんや家族で来てもらえる店は市民にも知ってもらえる。明石の魚の棚商店街。夜市をすることによって、観光客のみではなく市民にも知ってもらえる機会になった。連携をとった商店街は成功に導かれている。
- 「石橋×阪大」は学生たちに場を提供するだけでなく、学生が好きなことができ、学生のすることを拒否しないことが大切である。学生を通じて、市民からの信頼を得られ、他にも誇れるような成功例を築けていると思う。逆に、駅の反対側にコミュニティがないことは課題と考える。
- 課題を見出したので、これからアイデアのブラッシュアップをしていくことが必要。アイデアを持ち帰り、話し合い、未来図・目標を見出してもらうことが大事。常にPDCAを回している商店街は常に持続的な成功をしている。
- 前回の懇談会を受けて、学生と話す機会を設けてもらったが、学生からの好感触を得られた。
- 商店街の会議の時に学生が来て、イベントの手伝いをしてくれるという小さな仕組みはある。一度試みて大成功とはいかないが、一度きりでやめてしまうところがあるので、改良して次に繋げれば何かの役に立つのではないかと思う。子供のイベントに関しては「初めてのお使いイベント」「子供店長」「夏休みの自由研究企画」も開催し、何回か続けていこうということで始めたが、一回で終わってしまった。
- 全店に参加してもらうために様々な方法で何回もチャレンジした。「石橋おはこ市」に参加してもらうため、商店街の会員に入ってもらえるためにはどうしたら良いか。不動産屋に頼んで店舗に入る時には会員に入るように勧めてもらったりもしている。会員に入ってもらったら、こんなお得があるということも何とか考えている。
- 石橋駅西地域の中でも商店会と活性化協議会の2つに分かれている。現在、商店会の役員をやっているが、地域全体としての取組が必要で、全店舗に取組を周知する仕組みが必要。商店会と活性化協議会の連携が必須。活性化協議会が行っている阪大とのコラボイベントなどに商店会が入っていない。東地域の方も商店会や活性化協議会に何店舗かは関与しているが少ない。東地域でもコミュニティをつくり、何らかの絡みを持っていくともっと面白いと思う。
- 東地域のコミュニティでは「石橋下町倶楽部」がある。前回の商店会副会長は石橋下町倶楽部の会長で、全く関わりがないこともない。

6. テーマ②「夜市・その他コミュニティ活性化施策について」のディスカッション

◇商店街事例紹介

- 秩父市のみやのかわ商店街：「否定しないような仕組みづくり」

- 日南市の油津商店街：「外部人材の活用」。外部人材は溶け込みにくい信頼関係づくりに力を注ぎ、空間を変えていった。
- 阿蘇市の阿蘇一の宮門前町商店街：「やる気のある方々で組織をつくり、夜市を開催」。やる気のある方々がリスクテイクし、自らプレッシャーをかけることで、夜市を成功させた。
- 高松市の高松丸亀町商店街：「商店街全体を一つのショッピングモールのように」「土地と建物の権利関係の整備」。土地建物の権利関係の整備により、スピード感をアップさせた。
- 共通点は「やる気のある店主・外部人材（学生含む）が集う仕組みの構築」「商店街一体をテーマ化」「土地建物の権利関係」「商店街の有志によるリスクテイク」「まちの空気感・空間を変える」。これらを踏まえて協議する必要がある。

<意見>

◇総則的意見

- 一過性ではいけないから、商店街の方々は補助金に頼らないでいこうという意識がある。
- 情報の共有はとても大切。皆が参加することにこだわらないところの方が早く成果を生み出せる。その成果を見せていけば、自然と広がっていく。誰でも受け入れる体制をつくっておくことは大切である。
- マスタープランを作るのではなく、小さなプランが繋がって一つになっていく形を選んだ方が良いと思う。初めに1つの空間をつくり、それをまち全体に広げていくプロセスの計画をするべき。初めにつくる空間はエッジのたったものをつくる必要がある。最初をどこにして、どう見せていくのかがとても大切である。
- 活性化協議会はNPO法人化されて4期目か5期目だが、駐輪場の運営を担当させてもらうということで、今年から参加している。
- 元々駐輪場の運営をしており、売上を地域に還元したいとの思いで、「石橋おほこ市」のイベントなどができた。駐輪場の運営を見直したらイベントにまわすお金が捻出しにくく、人件費にお金がかかってしまっているのが現状で、見直しが必要だと感じている。
- インフラ整備にはまた別組織が絡んでいる。商店街の事務移管促進など、なるべく1つの組織にしていきたい。一時的に莫大な資金が必要になった時に融通できるようにしてはどうかなど、ルールの見直しを現在行っている。
- 「石橋×阪大」は、石橋商店街の人ですらあまり巻き込まれていない感じがある。1つの大きな括りになって、1つの方向を向いていく必要がある。
- 商店会のまとまりはある方だと思うが、全体的に周知されていない。
- 石橋南地域のコミュニティにも参加しているが、決めているのは役員十数人で、周知徹底がされていない。ポスターやビラ、WEBなどは活用しているが、周知徹底は足りていないと感じている。

- 昔サラリーマンをしていて、平日8時に帰宅すると閉まっているお店があり、日曜日も閉まっているお店が多い。休みなしという訳にはいかない一方で、後継者不足もあると思う。この辺りは課題だと思う。
- ステークホルダーをどう1つにするかは重要と思う。
- メリットがあることが明らかなこと、また自己拘束力を持つという点において自ら参加してもらおう姿勢が大事と考える。
- もう少し具体的に実現可能なプランになった方が良い。オペレーショナルライズ（operationalize：政策目的をより具体化、特定化する）できるようなゴールにする必要がある。アクションはあるが、それがどこに向かっているのかを明らかにした方が良い。
- 例えば、先ほどの商店街事例がどれほど石橋に応用できるのか。100%コピーしても上手くはいかない。上手くいかないのは強みかもしれない。様々な方面の課題が出てきて、収拾がつかないのではないか。
- どんな人が集まっているか、どんな人が住んでいるかという未来図がもう少し具体的にになっている方が「自分事」になる。
- PRではなく、情報の共有は「決めごとをする時にどれだけ自分が関わられるかどうか」「決まる前にどれだけ情報がもらえるかどうか」ということが大切である。
- 私は子育て世代だが、石橋商店街は自転車で通ってはいけないルールなので、子育て世代はそもそも商店街を通らない。商店街を通っているのは年配の方がほとんどであるが、その世代がさらに高齢になり商店街に来られなくなったら、誰が商店街に来てくれるのか不安である。
- 子育て世代が自転車を降りてでも商店街に入ってきてくれるようにしていかないといけない。自転車を排除するのではなく、自転車の方が来てくれる商店街になってほしい。
- お母さんが気に入ったところには家族全員で来てもらえるので、そういう商店街になってほしいという思いはずっとある。
- 父母世代と自分たち子育て世代とで考え方に違いがあり、子育て世代がやりたいことを理解してもらおう情報の共有は必要である。

◇夜市について

- 池田にはてるてる広場があり、ビアガーデン等ができる。石橋ではやるとしたらサンロードではないか。石橋下町倶楽部や留学生に屋台を出してもらおうなど、色々と方法はあれると思う。
- 全ての時間をカバーするのは難しい。それが本当に必要なのか。月1回のイベントとしてやるのは良いと思う。
- 夜市に関しても皆がやろうと思わないと成立しない。スモールスタートという方法が合うのかはわからないが、サンロードが難しいところなので、てるてる広場のようなもの

が石橋にもあれば、メンバーはいるのでできると思う。

- サンロードが難しいのは、交通規制の問題やチェーン店等夜遅くまでやっている店との兼ね合いである。東地域の方に依頼してやろうと思えばできると思う。しかし、仕組みを整理して、場を構築しないとイケない。
- やろうと思えば、いつでもできる自信はある。やることは簡単だが、有識者等懇談会の参加者以外の方等の周りの人が理解してくれるかどうか。
- やろうと思えばできるのが石橋の強みであると考え。
- 石橋は消費者があまりいない。店主が主である。消費者は商店街をどのように見ているのか。商店街が1つになったという意識があったが、現状は違うということを確認した。
- 行政として、防災公園、ポケットパーク、イベント広場のようなものをサンロードの中に作ることができれば、おもしろいのではないかと感じた。
- 石橋の発展、歴史から言うと、阪急が開発した住宅地。国道176号から石橋駅の間はほとんどが飲食店。
- 西と東で文化が違う。求めているものが違うということを理解しないと活性化が上手くいかない。西と東でテーマを別に。一体化はなかなか難しい。一体化によって、かえって潰れてしまうのではないか。違うテーマでアプローチを。
- 丸亀の事例は有名であり、ポイントは定期借地権を設定していることである。商店街が衰退していくポイントは、まず銭湯がなくなり、次に鮮魚店がなくなる。石橋もまさにその通りの道をたどっている。
- 地域住民が1,000人増えたら、小手先の話をしなくても自然に活性化する。
- 空間経済学という分野があるが、規模が大きくなるほど、大きな集積地があるほど、コストが下がるという説がある。スモールスタートは良いが、スモールのままで終わってしまう可能性がある。スモールスタートにあたるものは、テーマを研ぎ澄まして、ものすごく綿密に計画する必要がある。

7. テーマ③「駅前整備事業について」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- 古い町並みが残っているのは石橋の強みだと感じる。過去に再開発したが再々開発をしているところもある。
- 弱点はある。糸魚川や十三しかり、石橋も大火に遭いやすい。災害に強いまちにしましょう等々、不燃化が叫ばれている。今のまち並みを残しながら、大きな災害に遭いにくいまちにするにはどうしたら良いのかは課題として考えている。
- 石橋の東西は違って良いと考える。東西は簡単に行き来できる場所はないので、一体化させるという意味ではそこも課題の一つとして考えている。
- レトロ調という点において、池田を先斗町にしたいという意味ではない。まち並みにお

いて、ある程度ルールをつくり、誘導していけたらと考えている。

- 池田駅周辺は茶色のアスファルトになっているが、アスファルトから石畳等類似したものにしてはどうか。
- 通りをネーミングしてはどうか。
- ハードとソフトでどうまちをつくっていくかが大切と考える。
- ファサード整備に関してお店の方々がどれほど自覚しているか。
- 成功している商店街は国の補助金を使って店頭の整備をしている。
- サンロードなども車の乗り入れ、ポケットパーク、イベント広場等課題があり、色々な立場の皆様の意見を反映できればと思う。
- 箕面川から水を汲み上げているが、水が少ないときはなかなか上がってこない。土管に砂がたまってしまう。今井川は抜本的な改良が必要。
- 現在商店街の道はレンガ色に塗っているが、ルールが確立されていないので、塗り直しなどで統一感がない。飲み屋は石畳等で良いと思うが、商店街に関しては機能的な復旧のルール整備が必要かと思う。
- 水路は不法占拠な建物があって整備しづらいが、整えたら人は寄ってくると思う。
- 東は道が狭く、耐震性がない建物が多いので、道路から整備する必要があると思う。
- 先斗町は概観の色に規制があるので、規制整備までするのは、行政に検討いただきたい。
- 東西どちらが先でも良いが、どちらもやってほしい。

8. テーマ④「地域アプリ構想について」のディスカッション

◇地域通貨事例紹介

- ブロックチェーンを活用した地域通貨が流行してきている。地域通貨の発行目的は地域活性化。特徴は地域の限定、期間の限定、目的の限定。
- 上手く活用しているところは日常の動線に取り込んでいる。自治体が発行している場合もあるが、主には商店街が発行している。行政の施策と上手く結びつけていくことで、活性化に繋がる。
- さるぼぼコイン：金融機関が発行。地域経済の活性化。インバウンドの方々はまだ現金を使わないので、ターゲットにしている。QRコードを読み込むことで決済
- ハルカスコイン：近鉄百貨店が発行。QRコードで決済。近鉄沿線や他の自治体に広げていく予定。1ポイント=1円
- かすみがうら市：地方自治体が本格導入した初めての事例。ポイントが付く仕組み
- 白虎コイン：QRコードで決済。白虎コインでしか購入できない商品もある
- NeCoban：静岡銀行が商店街で活用
- 共通点は「ブロックチェーン技術の活用（金融機関や大学の研究テーマとの連携）」「QRコードでの決済」「対象は通貨かポイントか」「限定した店舗等で実証実験」

<意見>

◇総則的意見

- 最初に聞いた時は心配だったが、QRコードで読み取るだけなので、簡単でおもしろいのではないか。
- 阪大生や若いお母さんに来てもらうきっかけになると思う。いくつかの店が地域通貨を導入したら、最初は入っていない商店街のお店も興味を持ち、巻き込むきっかけになると思う。
- 商店街に入っていない人でも反応があるのでは。
- 石橋独自で発行されているポイントカードは個々の店では発行しているが、ありすぎてどのポイントカードか分からなくなる方もいる状況にある。
- 健康アプリはどの世代も嬉しい。見守りアプリも子育て世代には有り難い。
- 商店街は様々なお店があるので、ひとつの店だけではなく、商店街の連携ができれば良いと思う。例えば、A店のこの商品とB店のこの商品が合うなど。
- 以前店でposレジを使ったことがあったが、ポイントが貯まっていることに気づかない年配の方もいたので、ポイントカードに戻した。
- 地域通貨に関しては上手く活用できれば非常に良いと思う。
- 店に来ないと利用できないという点が、店のリソースを見直すことを促すことにつながる点においては良いと思う。資金に関しては検討が必要と考える。
- 寝屋川の駅前商店街で地域通貨を発行している。福祉でお世話になった方へお礼を渡すに当たり、現金では渡しづらいということから始まり、NPOから地域通貨を購入し、支払うという仕組み。子育て支援と紐づけて、仕組みをつくってはどうか。
- 小規模で通貨を導入して上手くいくのか。
- 地域の方のリスクテイクがゼロということはないと思う。リスクはお金だけではないと思う。
- どれだけやる気のある地域の方々を集めていただけるのが大切。
- 自治体が発行すると法規制の課題から現金に替えづらい。
- 地域通貨のアプリの研究をしている先生は多くはないと思う。
- ブロックチェーンを使う必要があるのか。目的は地域通貨を導入する技術の採用なのか、大学との連携なのか。学生はおもしろがって使ってくれると思うが、優秀な学生を表彰する形で、地域通貨を題材として使うという意味なのか。
- ブロックチェーンを活用する必要は必ずしもないと思う。
- 研究テーマを組み込むかどうか論点。ブロックチェーンを活用した方が研究テーマとして金融機関が入りやすいと思う。

9. まとめ・次回に向けての課題共有

- 皆様にお願いしたいのは、地域に持ち帰って建設的な議論していただき、そこで拾い上

げた意見を 11 月にお聞かせいただきたい。次回は 11 月 20 日に開催予定。

以上

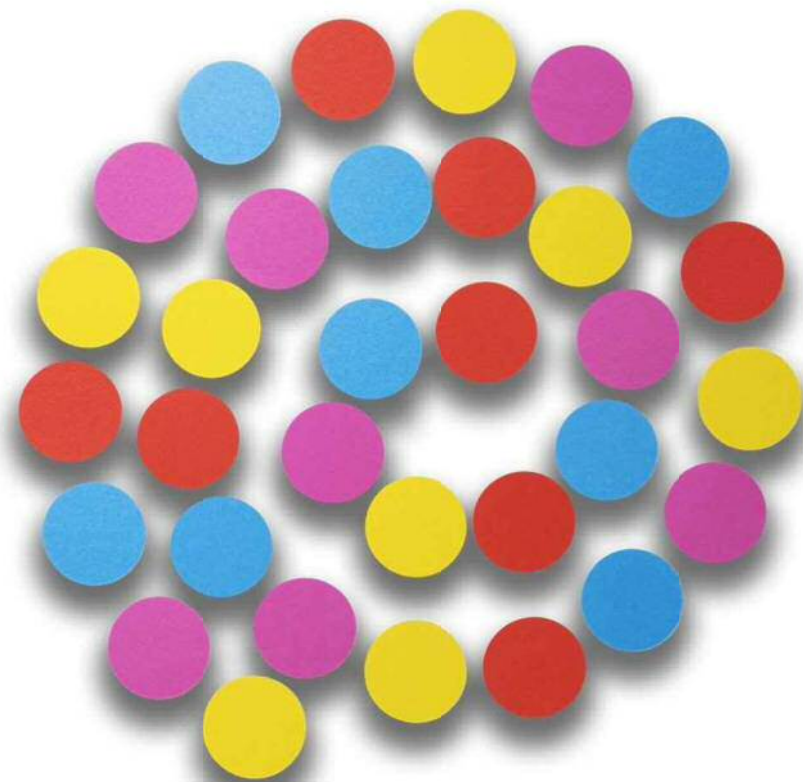
第3回 有識者等懇談会（石橋地域）議事次第

日時：11月20日（月）15時半～17時半

場所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

- 1 池田市挨拶
- 2 前回の懇談会の振り返り
- 3 前回の懇談会を受けた地域の声について
- 4 テーマパーク構想のコンセプトについて
- 5 コンセプトカラー・キーワードについてのアンケート&ディスカッション
- 6 これまでの議論のとりまとめについて
- 7 テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ

以上



第3回有識者等懇談会 (石橋地域)

有限責任監査法人トーマツ
2017年11月20日

本日のアジェンダ

	アジェンダ	
1	池田市挨拶	池田市
2	前回の懇談会の振り返り	トーマツ
3	前回の懇談会を受けた地域の声について	全員
4	テーマパーク構想のコンセプトについて	トーマツ
5	コンセプトカラー・キーワードについてのアンケート&ディスカッション	全員
6	これまでの議論のまとめについて	トーマツ
7	テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ	トーマツ

前回の懇談会の振り返り



地域プランや前回までの懇談会を踏まえた内容は以下のとおり理解しています

これまでの懇談会等の内容は全てリンクしていることが以下から理解できます

地域コンセプト	子どもと子育て世代が集まる いしばし 人が集い交流する愛着のある いしばし
地域の強み	・阪大隣接 ・地域リーダーの存在
現状の具体的な主要課題	・にぎわいの持続性 ・域内外への取組のPR
目指す目的地	交流の増加
目的地までの主要プロジェクト案	・地域アプリ導入 ・駅前整備計画 ・商店会の新たな仕組みの導入
ターゲット層	学生、子育て世代
懇談会でのキーワード	学生との連携、接続性、空間

前回の懇談会を受けた地域の声について

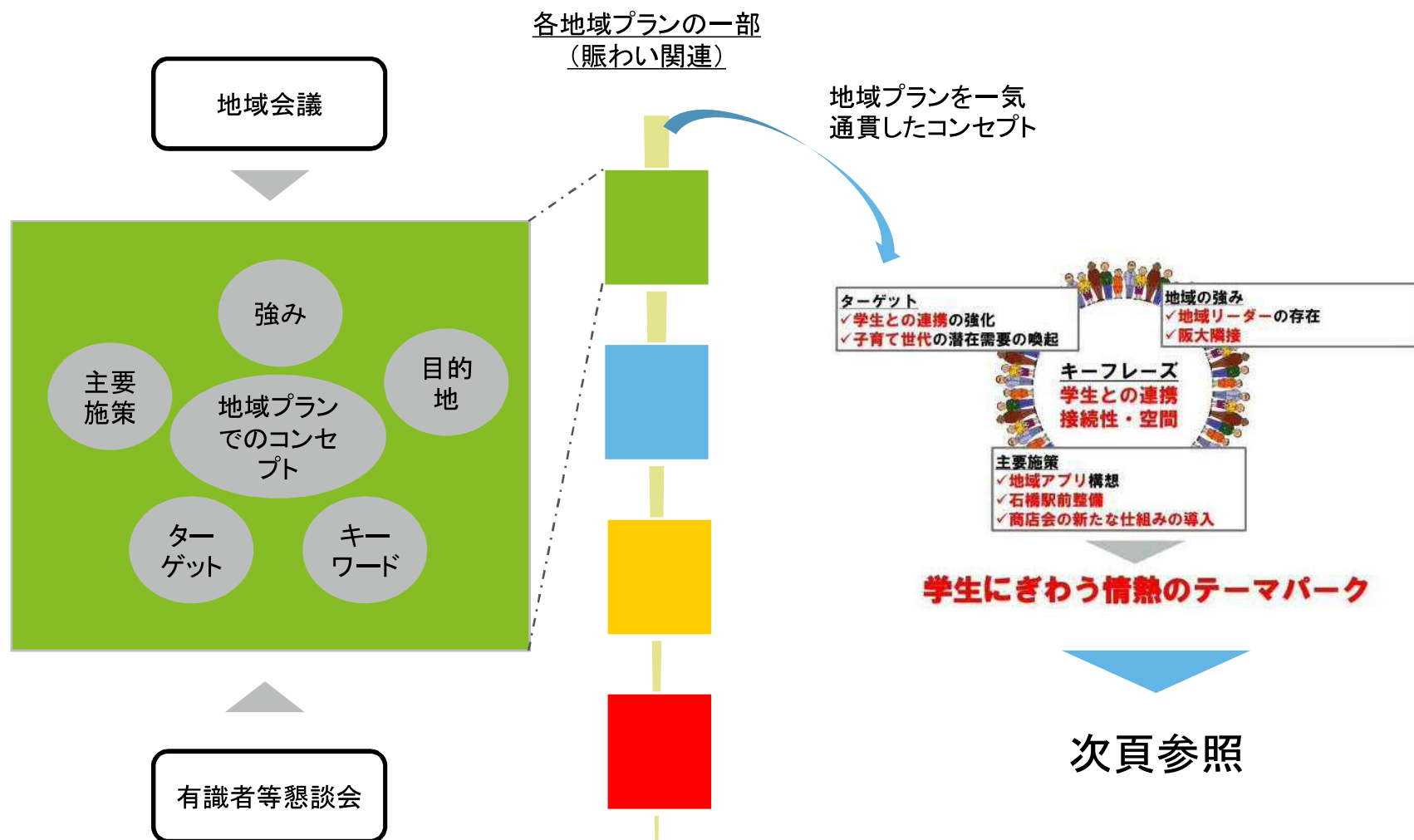


テーマパーク構想のコンセプトについて

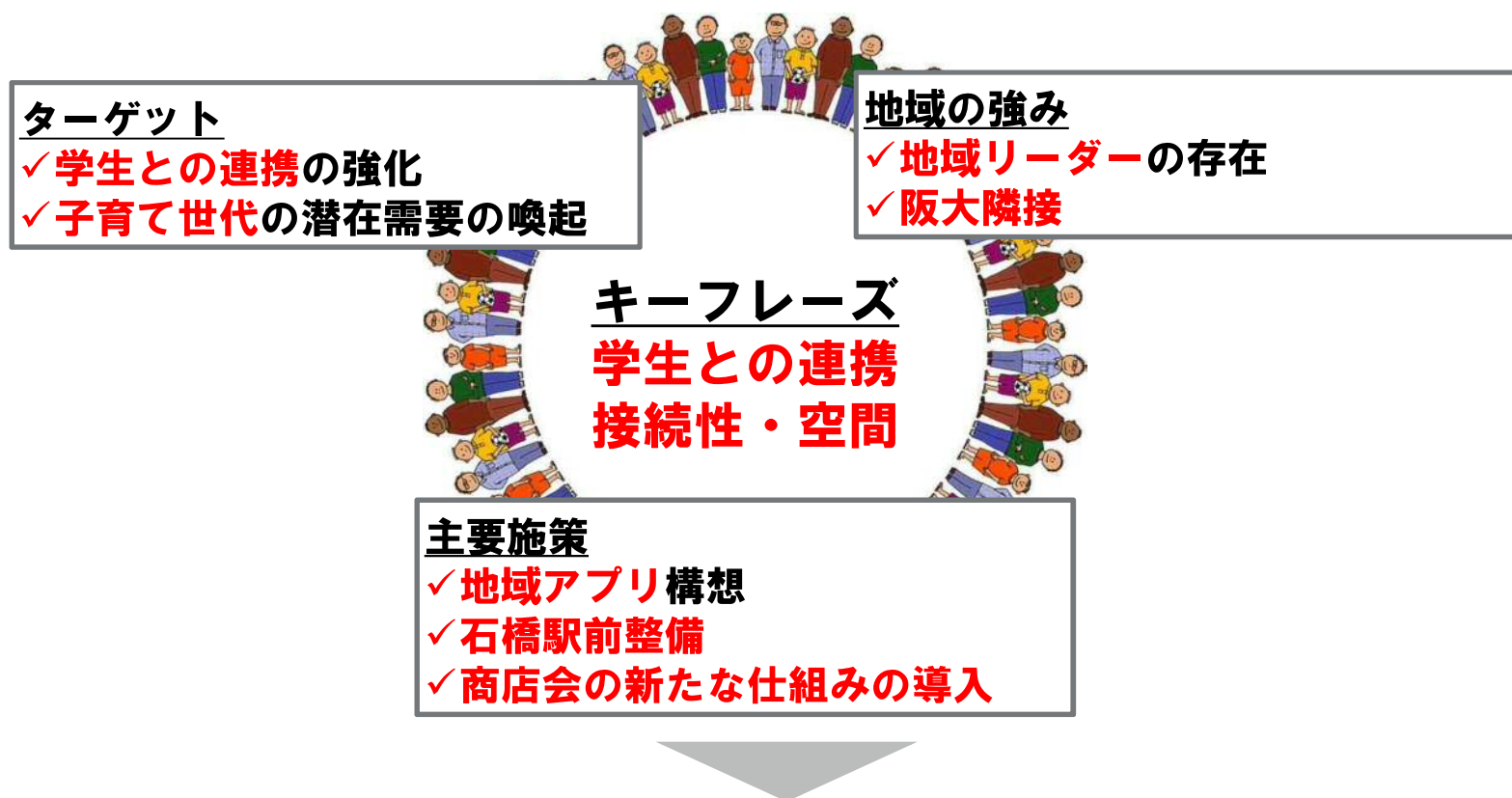


テーマパークとしてのコンセプトの必要性

各地域プランや懇談会をベースに横串を通したテーマパークのコンセプト設定が必要と考えています



石橋地域のコンセプト 例



学生にぎわう情熱のテーマパーク

テーマパーク構想のコンセプト設定にあたって

テーマパーク構想のコンセプト：
(イメージ)

(検討中)

地域	地域プランコンセプト	テーマパークコンセプト	目指す目的	ターゲット	主要プロジェクト	地域の強み	イメージ	
							日本語	色
池田	ハッピーが近いまち。 池田市。	歩いてまわれる彩りのテーマパーク	観光客の回遊	ファミリー女性	回遊性向上（五月山エリアマネジメント）・商店街活性化（キッサニア）・駅のテーマパーク化	ウォンバット・テーマの多様性・2大観光拠点	たのしむ かんじる みつける	虹色
石橋	子どもと子育て世代が集まる いしばし人が集い交流する愛着のある いしばし	学生にぎわう情熱のテーマパーク	交流の増加	学生子育て世代	地域アプリ・駅前整備計画・商店会の新たな仕組み導入	阪大隣接・地域リーダーの存在	あじわう	赤（赤い橋・情熱の石橋）
細河	細河の自然を取り入れたまちづくり 若者が住みたくなるまちづくり	自然ふれあう緑のテーマパーク	自然と賑わいの共生	ファミリー若者	緑のモール・植木の利活用・大池田展	自然・植木産業	ふれあう	緑（自然）
伏尾台	子育てにやさしいまち みんなが住みたくなるまち	こども育む輝きのテーマパーク	定住人口増加	子育て世代高齢者	新たな地域交通・空き家活用・はぐのさと構想	アクティブシニア・コミュニティ力・ほそごう学園の教育	はぐくむ	未定

コンセプトカラー・キーワードについてのアンケート&ディスカッション

これまでの議論のまとめについて



学生にぎわう情熱のテーマパーク①



これまでの議論のまとめ

スマートなにぎわいへ
～つながる～

スマートなにぎわいへ

- テーマパークアプリの開発を検討

情熱の集うステージへ
～まじわる～

情熱交わるステージへ

- 地域リーダーの集う仕組みを再構築
- 民間企業や大学とのコラボレーションの充実を図る
- テーマパークの象徴となるイベントの開催を検討
- 石橋会館・石橋駅前会館の整備

昭和レトロな景観へ
～ほっとする～

昭和レトロな景観へ

- 石橋駅前を昭和レトロ風へ整備を検討
- 数多くのギャップ作りを検討

その他

- 市営石橋住宅建て替え事業





学生にぎわう情熱のテーマパーク②

スマートなにぎわいへ
～つながる～

めざす方向性

若者が多く集う石橋地域。先端技術を取り込んだテーマパークアプリを開発し、受容性の高い石橋地域で先駆けて取り組むことを検討します。「IT×学生」により、石橋の地域資源をフル活用します。

情熱の集うステージへ
～まじわる～

地域リーダーの集う仕組みを再構築します。また、雑多な賑わいの中にもテーマ性を持つことで、ふと赴いた人が虜になる空間をつくります。地域リーダー相互の情熱のコラボレーションを繰り返すことでその取り組みは石橋全域に広く伝播目指します。

昭和レトロな景観へ
～ほっとする～

数多の店舗が軒を連ねる石橋駅前。駅を降りるとどこか昭和の雰囲気漂う活気と人情があります。雑多なテーマが売りの商業空間をより「ほっとする」昭和レトロな空間を実現します。

テーマパーク構想とりまとめの 今後の流れについて



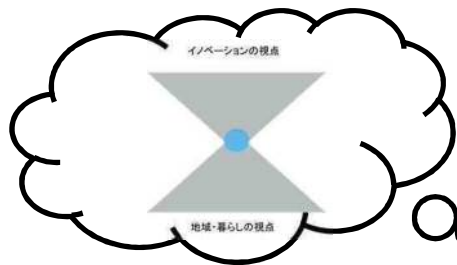
構想実現にあたって考慮する事項とは・・・

持続的にテーマパーク構想を実現させるためには、今後以下のような事項を考慮する必要があると考えます

「10万人総活躍」のできるまちづくりの実現



そのために、市民1人1人がどういった役割を果たすのか・・・



長期的視点(石橋地域の未来を考える)
+ 短期的視点(現在の暮らしの充実)

テーマパーク風に言う
とキャスト・クルー

テーマパーク構想は長
期的視点がベースとな
る

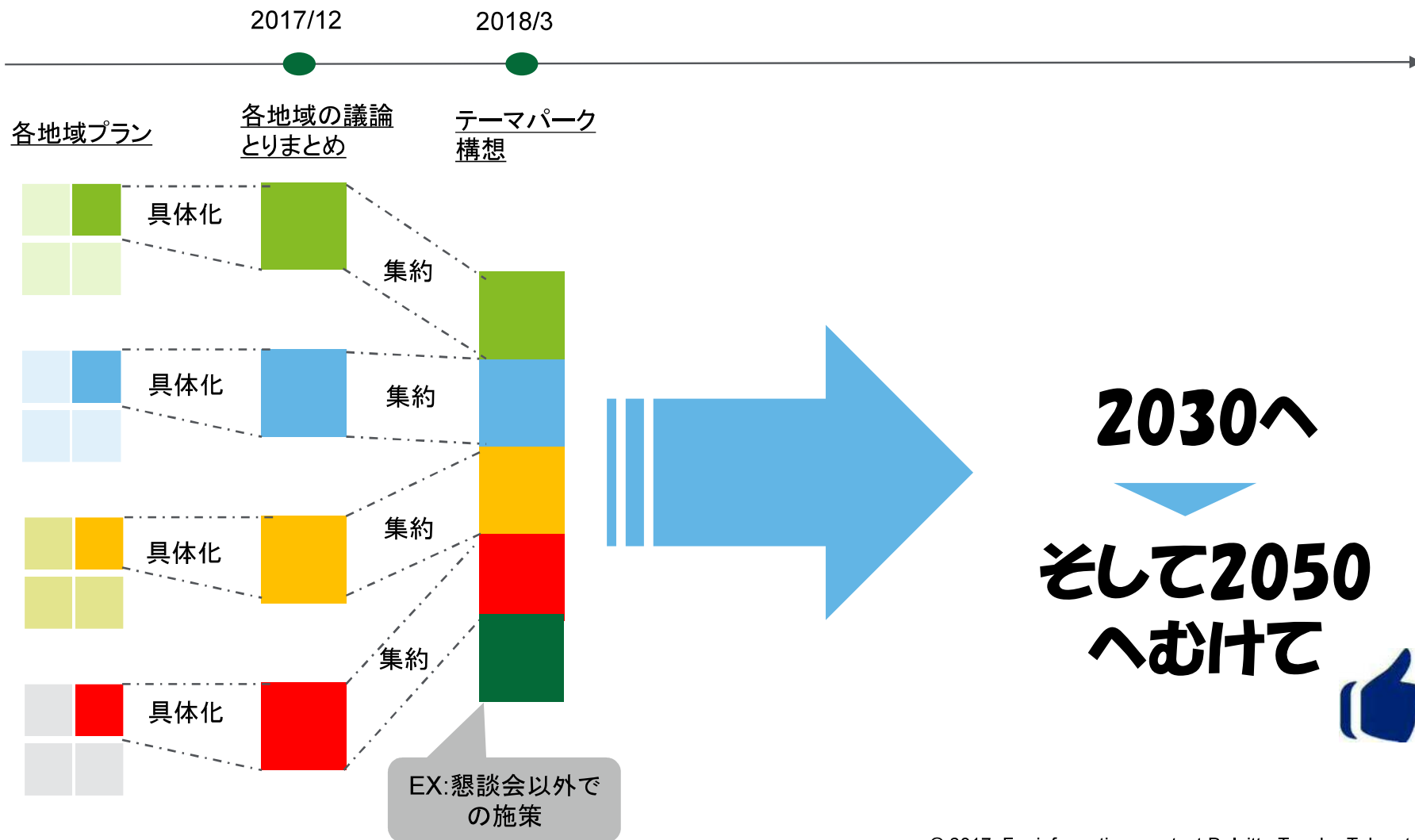


そのためには行政主
導ではなく、民間主
導の持続的仕組みが今
後必要

テーマパークの土台となる市民の役割(ソフト)を
集約し、そこにあるべき姿「ハード」を描く

ソフトをベースとした地
域の意識醸成をベー
スにしなければ失敗に
繋がる恐れ・・・

今後の流れ





デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人 および DT 弁護士 法人 を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザー 等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザー サービス、リスク アドバイザー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスをFortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)もご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数を指します。DTTLおよび各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL(または“Deloitte Global”)はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitteのメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第3回 有識者等懇談会（石橋地域） （議事要旨）

日 時：平成 29 年 11 月 20 日（月）15：30～17：30

場 所：池田市上下水道部庁舎 3 階研修室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 後藤健太、堀登志子

地域住民等 7 人

池田市 倉田市長、木田副市長、総合政策部長、市民生活部長、都市建設部長

1. 倉田市長より挨拶

2. 前回の懇談会の振り返り

- 今回の議論をまとめ、テーマパーク構想に落とし込むことを目標にしたい。
- 1、2 回目の懇談会の内容を取りまとめたものに対して、皆様のご意見、また各地域の反応をお聞かせいただきたい。
- 横串となるコンセプトの設定が必要だという認識で、現段階のテーマパーク構想のコンセプトをご紹介したい。コンセプトとなる色とキーワードをアンケートでお答えいただき、皆様の声を反映していきたい。
- 懇談会自体は決定の場として開催されているものではないが、大きな方向性のコンセンサスは得ておきたい。
- テーマパーク構想は石橋未来夢プラン 2030 を土台としており、「子どもと子育て世代が集まる いしばし」「人が集い交流する愛着のある いしばし」を地域コンセプトとしている。
- 大学が隣接しており、商業の話がメインテーマ。地域リーダーがすでにおり、様々なイベントを実施している。一方で外部から見れば、すでに賑わいがあるように見えるが、地域としては違う。学生を上手く巻き込んでいくことが重要だと思う。
- 商店街の会合に参加した際には、阪大生も参加し議論されていたが、取組について一部の方にしか伝わっておらず、域外にその取り組みをどのように PR していくかが課題だと認識した。
- 東のみではなく、西も整備する必要がある。学生や若者が多い石橋だからこそ、地域アプリを上手く活用できると考えており、1つのプロジェクトとして考えている。
- 商店会の課題として、一部の人でイベントを決めて動いている現状がある。情熱の石橋と言われる情熱をいかに集めるかということが大切であり、仕組みの導入という案を入れている。
- ターゲットは研究者も含めた「学生」、また子育て世代を上手く取り込むことが地域アプリとの連動には必要だと考え「子育て世代」ではどうかと考えている。

- キーワードに関しては、1、2 回目の懇談会で出てきたものを挙げている。「学生との連携」を持続的に拡大していくかが重要である。「接続性」に関しては、コラボレーションの必要性であり、地域の活性化では外せない共通認識だと思っている。「空間マネジメント」においては、雑多なものがあることが石橋の良いところではあるが、空間を統一的に見せていくことは重要であると考えている。

3. 前回の懇談会を受けた地域の声について

<意見>

- 商店会会長や阪大生なども集めて話し合いをした。まだまだ動く人手が足りない。学生に関しては、石橋×阪大はあるがメンバーを増やす必要がある。商店会も会員を増やしたいという声があった。
- 商店会入会の利点について話したが、直接お店に声を聞きに行き、やってほしいと希望されることを実現していこうという方向で話をした。そんなに良いことをやってくれるなら、商店会に入ろうと思ってもらえるように動いていきたいと考えている。
- 一部の密な学生とはすでに信頼関係があると感じた。それをどうやって域内にまた外にも波及させていくかが大切だと思う。
- 参加している全員が他人事ではなく、自分事と捉えていた。他人任せの商店街は上手くいかない。皆様が自分事と捉え、そこに学生を上手く巻き込んでいるのは素晴らしいことだと思う。
- 自分たちのやっていることが素晴らしい活動だということを自覚していただき、PDCAを回しながら実行し、外に発信していくことが大切だと考えている。
- 石橋商店街はおもしろいと言われるが、何がおもしろいのか分からなかった。域外から人を呼んでツアーをしていたが、真っ直ぐではない商店街がおもしろいという声を聞いた。
- 石橋商店街は市場のような雰囲気、小奇麗にせず、インスタ映えするような現在の雰囲気は残した方がよいのではないかと思う。
- SNS などを使用いただくことも踏まえ、インフラとして、フリーWi-Fi を設置することは良いのではないかと思う。

4. テーマパーク構想のコンセプトについて

- テーマパーク構想を取りまとめるにあたり、横串の役割が必要なため、全地域を「○○のテーマパーク」で統一しようと考えている。
- 地域プランに横串を通すために、コンセプトが必要だと考えている。石橋のコンセプトは現状「学生にぎわう情熱のテーマパーク」としている。
- 何か 1 つの表現で統一したいと考え、各地域にカラーを設定したいと考えている。石橋は「赤」だと考えている。「情熱の石橋」も赤字で書かれていた。

- お手元のアンケートに10分ほど、各々が思われる「カラー」と「キーワード」を記載いただきたい。

<意見>

- カラーは「赤」だと思う。東口では真っ赤な夕焼け、西口では赤い橋に象徴され、賑わうまちで良いか考える。
- 本町通りにビリケンがあり、本来は池田がビリケンゆかりの地といっても過言ではない。例えば下町クラブが寄付を募り、石橋にビリケン通りができて良いかと思う。先日ウォンバットカメラの件で、クラウドファンディングでの寄付集めに成功している。
- ふるさと納税の返礼品として石橋の地域通貨（石橋お楽しみ券）を渡してはどうか。
- インスタ映えも期待し、パン屋さんでも石橋赤いパンを作ってはどうか。色々な意味で噂になっていけば良いと思う。
- カラーは「グレー」、雑多なイメージを明るく楽しいイメージにもっていくのではなく、迷路のようなイメージを押し出した方が、石橋の特色が出るのではないか。
- もし「赤」にするとしても、明るい赤ではなく、阪急電車のような深みのある赤が良いのではないか。
- カラーは「赤」。赤い橋、赤ちょうちんのイメージ。「茶」は、昭和、居酒屋のイメージである。
- カラーは深みのある「赤」。キーワードは「落ち着く」「安心する」「ほっとする」、外から来た人もわくわくドキドキする中で、ほっとするようなまちづくりにしたいという思いである。高齢者の方も同様に大事にしていきたいので、そのようなワードも必要だと思う。
- 先斗町のような雰囲気以外から人を呼び込むことも必要だとは思いますが、まずは地域内の方が安心するようなまちづくりが大切だと思う。
- キーワードは「ぶらぶら」。石橋駅は車の乗り継ぎが不便であり、バス停も離れているので、ぶらぶらと歩けるまちのイメージである。池田駅などのように公共交通の整備はしてほしいと考えている。
- カラーは「赤」。ダイナミックな感じと書いた。ダイナミックなイノベーションがたくさん起こっている。
- キーワードは「Launch-pad（発射台）」「Melting-pot（坩堝）」。雑多だけれど、そこで何か生まれそうな感じが石橋にはある。
- 人が通り過ぎるだけでなく、わざわざそこに行きたい、滞在したいと思ってもらう必要がある。尖ったようなものがあったとしても良いのではないかと思う。
- 東口に住んでいる。貴重な意見をたくさん頂いていると思う。
- 商店街は昼の顔、東口は夜の顔という意味合いで、キーワードは「ほんのり歓迎」な

ど「〇〇歓迎」という4文字熟語にしてはどうかと思った。

- カラーについては、昼は「白」、夜は「赤」。赤ちょうちんのイメージがある。
- カラーは「赤」。赤ちょうちん含めて、赤のイメージである。
- キーワードは「にぎわう」。昼は商店街、夜は飲み屋街としてにぎわっている。学生も多くおり、他地域よりにぎわいが特色であると思う。

5. これまでの議論のとりまとめについて

- コンセプトの1つに「スマートなにぎわいへつながる」を挙げている。スマートはスマートフォンを差し、テクノロジーを駆使して繋がっていくイメージである。
- 学生がメインターゲットではあるが、お年寄りの方、子育て世代の方、来訪者など幅広い方々に活用いただけるよう、議論していきたい。
- アプリの導入を他地域への展開も将来的には視野に入れつつ、石橋で始めるのが良いのではないかと考えている。
- 「情熱の集うステージへ」というコンセプトは、地域リーダーが集う仕組みの再構築を指している。東西を単一色にするのか、それぞれテーマ性を持たせるのか、という議論も出ている。
- 情熱の集う人達をいかに全店に声をかけて集めるかが大切である。全国の事例の中から良い所取りをし、持続する仕組みづくりをめざしたい。
- テーマパークの象徴となるイベントとして夜市を開催することも2回目で議論した。場所としてはサンロードが良いという意見も出た。
- 石橋会館・石橋駅前会館の整備なども含めて、人が集う場所を作っていきたい。
- 「昭和レトロな景観へ」というコンセプトは、雑多な雰囲気を害さない程度に綺麗な景観を入れていくという意味である。数多くのギャップづくりは、雑多なものの中に、統一したものをどのように入れていくかがポイントとなる。
- 赤をテーマにしたグルメやショッピング袋を赤に統一していくなどが考えられる。
- 「つながる」「まじわる」「ほっとする」がキーワードだと考えている。
- テーマパークアプリが分かりづらいと思うので補足したい。通貨や決済という機能だけでは面白味がないと思うので、様々な機能をどう持たせていくのかが必要である。
- 「健康」は歩数計や日々の血圧を測れるなどの機能である。健康アプリは他にもあるが、例えば血圧を1ヶ月連続で測定すると100ポイント貰えるなど、アプリの使用により地域ポイントなどをもらえたら、テーマパークのアプリを使用する意味があるのではないか。
- 「見守り」は地域内の学校等にビーコンを設置して、子どもが通過するとお母さんのスマートフォンに通知がいくことで、登下校の安全を見守るアプリである。
- 「クーポン」については商店街で様々なカードを配っているが、これらを全て集約して、お客さんのニーズに則った利便性が図れると思う。アプリの利用者が増えると広

告にも使え、1つの収入源としていく方法もある。

- 「ライドシェア」は自動車のあいのりや自転車のあいのりで、他の地域のユーザーも得られるのではないかと考えている。
- 「行政サービス」はブロックチェーンを活用し、住民票などをいつでもどこでも取れるシステムを導入することにより、人件費削減につながるのではないかと考えている。
- 例えば、銀行で1,000円分=1,000コインチャージすると、50コイン分のインセンティブがある。地域通貨は石橋でしか利用できないので、他のアプリ機能との相乗効果も図れる。
- 現在導入されている地域通貨の多くはQRコードなので、クレジット設置等のコストがかからないのは良い点である。
- ゆくゆくは他地域へ広めていくことも踏まえ、どこをスモールスタートにするかが大切であり、石橋で始めてはどうかと考えている。

<意見>

- 日ごろ取り組んでいることばかりであるが、非常に難しい。以前導入した時は賑わったが、皆が皆活用するわけではないので、どうしても足並みが揃わない部分はあると思う。
- これまで取り組んでこられた活動の集大成として、地域アプリなどのテクノロジーを駆使したおもしろい形で取り組めたら良いと思う。
- 民間企業などにも協力いただくことで、域外の知見も入れたイノベーションが実現しやすいと考えている。
- 今の学生はあまりアルバイトをしないようになってきていると感じている。学祭などがあると賑わうが、そのようなきっかけがないことが多い。
- 外国人留学生は家で過ごす人が多いと感じている。石橋で留学生だけが集まれる場所をつくりたいと考え、実現できたら面白いと感じている。
- ずっと何かを考え続けているまちでないといけない。石橋はしご酒祭りに関しても、正直儲けにはあまりならないが、自分の店に人が並ぶという経験をすることで、それを発奮材料にして活力にもなると思うので、1年に2回ほどは開催していきたいと考えている。
- 続けることが大切であり、小さな成功事例をつくっていくことも大切。
- 基本的にイベントに誘ってもらえるのを待っている人が多いと思う。
- 石橋下町倶楽部で商店会への入会を勧誘すると、何かメリットがあるのかとまず聞かれる。賑わったら、そのうち良いことがあると言い続けている。
- 例えばテーマパークの貢献度によって店舗にステッカーを貼るなどし、それに応じて優待などを行えば、メリットがあると考えられる。
- 東と西は違うが、どこかで交わったら良いと考えている。バルやイベントが賑わって

いるのは知っている。

- 商店街には飲食店ではないお店もあるので、それも含めて考えていけたら良いと思う。
- 石橋下町倶楽部の寄り合いでも話題になっていたが、西と東に分ける考え方がそもそも違うと思う。商店街と石橋全体という考えにした方が良いのではないかと思う。
- 西の商店街とも協力していきたいと考えている。
- 昔から西と東が分かれてしまっているところはあるが、以前よりは改善していると思う。
- 商店会が存在していることにより、やはり会費の支払いの有無等の問題はあある。
- 石橋下町倶楽部と一緒にイベントをするなど協力し、石橋をさらに盛り上げていけたらと思う。
- 東西で連携が一部上手くいっていない部分もあるが、商業の仕組みの再構築を上手くやっていけたらと思う。
- テーマパーク構想が始まることで、店が得する、何かやってもらえるという印象にならない方が良いと思う。儲けたり得をするために、店舗を経営する事業者の方々が自らアプリを活用していくなど、主体的に取り組んでもらう方向にしていく必要があると考える。
- 「情熱の集う」をベースに「スマート」と「昭和レトロ」をどうつくっていくか。
- テーマパークというまちづくりは池田市しか行っていない。地域の方も行政の方も相当な覚悟が必要だと思う。外の方も一緒に行っていく必要があると思う。

6. テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ

- 行政としても持続的ということが非常に大切だと考えられている。それを実現していくためには、「10万人総活躍」をどのようにつくるのか、皆さん1人1人がテーマパークの中でどのような役割を果たすのかが重要である。
- 商店街に400店舗あり、現在商店会に入っているのが50店舗だとすれば、出だしが大変だとは思いますが、その後は自ずと増えていくことが期待できるので、50を60にしていくなための仕組みを考えていきたい。
- テーマパーク構想は、長期的視点と短期的視点で成り立っている。店がどうやったら儲かるのかというのは短期的視点で、その先石橋の行く末を考えるのが長期的な視点である。長期的な視点と短期的な視点の接点として考えたのが地域アプリであり、そのような観点で取りまとめさせていただきたいと思う。
- ハード事業ありきだと失敗する可能性が高くなる。ソフト面を整備した上で、ハードを描いていくことが重要だと思う。
- 3回の懇談会でいただいた各地域の議論を3月までに取りまとめ、行政と調整をし、テーマパーク構想にしていきたい。2050へ向けた考えも入れていきたい。

<意見>

- 長期的視点と短期的視点とあるが、視点だけではなく、具体的に長期にできることと短期でできること、ソフトとハードは具体的にあぶり出していったほうが良いと思う。
- お客様＝外部に向けて、「情熱」という表現は力が入りすぎているのではないかと思うので、もう少しほんわかした愉快的な雰囲気の良いのではないかと思う。
- 先斗町計画の中に1つ1つの道に名前を付けるという話があると聞いたのだが、石橋に観光客を誘致したいという認識で良いのか。
- ターゲットは域内と域外とそれぞれいると考えている。石橋においては、域内がベースとしつつ、域外の方もターゲットだと考えている。
- コンセプト設定にあたり、整合性が取れていないと感じる。
- 本気でテーマパーク構想をプラン化していくと、整合性の部分はネックになってくると思う。
- 実際構想を策定した後、幅広く様々な方の意見を聞いて、肉付けしていく必要があると考えている。そこは留意しつつ、行政と進めていきたい。
- 子育て世代の話題があまり出てこない。前回の石橋未来夢プラン2030の時にはよく出てきた。
- 夜が楽しいまちという面と、子育て世代や学生を考えると「繋がる」「学ぶ」という面の2面をめざせたら良いと思う。
- 石橋祭りの実行委員をしているが、駅前公園の夏祭りには大勢の人がくる。年に1度ではなく、回数を増やしてはどうかと思う。
- 都市計画に関して、石橋がT字路で回遊はしないので、石橋駅付近を回遊できるようにすれば、もう少し活性化するのではないかと思う。
- 池田市全体としてすべきことは市でもやっていきたい。構想は作らせていただいているが、具体策に関しては、今後皆様の意見をいただきながら検討していきたい。
- 企業の参加がなければ進んでいかないと考えており、今後とも貴重なご意見をいただきたい。

以上